

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年2月14日

【四半期会計期間】 第36期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第3四半期 連結累計期間	第36期 第3四半期 連結累計期間	第35期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	511,314	504,844	741,525
経常損失 ( ) (千円)	195,050	62,401	1,170,355
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	199,078	68,438	2,094,467
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	199,078	68,438	2,094,467
純資産額 (千円)	3,167,405	1,273,002	1,341,441
総資産額 (千円)	5,358,792	3,260,714	3,425,900
1株当たり四半期(当期)純損失 金額 ( ) (円)	27.41	9.22	287.52
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.0	39.0	39.0

回次	第35期 第3四半期 連結会計期間	第36期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	12.00	3.74

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における、当社グループのセグメント別の業績は、下記のとおりとなりました。

##### ・診断・試薬事業

当事業においては、当社の主力製品である抗体関連試薬の販売や受託サービスの売上高が、国内外ともに順調に推移した結果、前年に比べ大幅に増加いたしました。

また、医薬用関連においては、マイコプラズマ感染症診断薬原料の販売が、製造方法・ロットサイズの変更等の影響により減少し、また、海外へ販売しているアルツハイマー病の体外診断薬原料が、前期末に纏まった売上が計上されたこと等により、前年と比べ、減少いたしました。また、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キットの売上高が増加したことにより、前年に比べ増加いたしました。なお、当事業においては、新規治療薬シーズの開発や体外診断用医薬品の製品開発を積極的に行っております。

その結果、当セグメントの売上高は、398,933千円（前年同期比8.4%増）となり、営業利益は64,954千円（前年同期比23.6%増）となりました。

なお、当事業においては、利益の増加を目指して参ります。

#### 《当事業における研究開発について》

#### （体外診断用医薬品の実用化に向けた研究開発テーマと状況）

##### 継続テーマ

学校法人埼玉医科大学が所有する、難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー「CTP (cochlinomoto-protein)」に関する発明に対して、体外診断用医薬品に向けた製品開発を行ってきました。昨年、早期に体外診断用医薬品の承認申請及び製品化を実現すべく、株式会社コスミックコーポレーションに日本国内での薬事申請・販売の権利を譲渡いたしました。現在、同社が主体となって、体外診断用医薬品の承認申請に向けてデータ採取、資料作成を行っております。当該申請が承認されることにより、当社は販売金額に応じたロイヤリティーを受領することになります。さらに、本製品の製造は当社が行いますので、将来、売上の拡大が期待されます。

筋ジストロフィー患者の尿中に存在するタイチンというタンパク質に対するELISA測定系の開発を某大学、及び研究機関との共同研究で実施し、平成28年11月に研究用試薬として販売を開始致しました。筋ジストロフィーとは骨格筋の壊死・再生を主病変とする遺伝性筋疾患です。患者尿中の解析において、タイチンの断片が存在することが発見され、病気の診断・病態のモニタリングマーカーとしての有用性に関する論文を発表致しました。今後、体外診断薬としての開発を進めてまいります。また、このタンパク質は筋肉に存在することから、運動負荷による筋肉障害のバイオマーカーとしても有用であると考えています。

海外診断薬メーカーと共同で、認知症関連タンパク質として、アミロイド と並び重要なターゲット分子であるタウタンパク質の測定系開発を進めておりましたが、先ずは先行して、海外向けに研究用試薬としての販売を開始しました。現在、販売しているアミロイド と併せた相乗効果が期待できます。また、日本国内においても、体外診断薬としての開発を進めてまいります。

#### （医薬品シーズとしての研究開発テーマと状況）

##### 継続テーマ

認知症関連タンパク質として、アミロイド に関しては、京都大学、千葉大学と共同で、神経毒性を強く有するといわれている毒性オリゴマーに対する特異的測定系の開発に成功し、論文を発表、平成28年11月にELISAキットの発売を開始いたしました。本製品に用いている毒性オリゴマー特異的抗体は医薬品シーズとしての可能性を有していることから、共同研究先及び外部委託機関と連携して、動物モデルを用いた薬効・薬理試験などのデータを蓄積して特許申請を行っております。また、平成29年6月26日付で発表致しましたように、トランスジェニック社（以下TG社）と共同研究開発契約を締結し、TG社が有するモデルマウスを用いて、A 毒性

オリゴマー特異的抗体のAD治療薬としての効果・効能評価を行ない、医薬品としての開発可能性の検討を共同で取り組み、AD治療薬シーズとして製薬メーカーへの早期導出を目指してまいります。

機能性糖ペプチドに対する抗体開発として、医化学創薬株式会社（以下、医化学創薬）との共同研究において、オステオポンチンなどの標的に対する特異的抗体の開発を進めてまいります。医化学創薬は独自の高度な糖鎖合成技術を保有しており、この技術を駆使することで、これまでに困難であった機能性糖ペプチドを合成することが可能となり、当社はその糖ペプチドを抗原として特異的抗体の作製を行うことにより、これまでにない特異性と結合親和性を有する抗体を作製することが可能になります。そのような糖鎖を含む認識部位に対する新規抗体を診断薬、治療薬のシーズとして開発してまいります。

#### （研究用試薬の実用化に向けた研究開発テーマと状況）

##### 継続テーマ

株式会社生命科学インスティテュート（旧株式会社Cllo、以下「LSII」という）とMuse細胞を用いた再生医療事業に関して共同研究を実施しています。Muse細胞は多能性幹細胞であり、損傷部位に集積・生着し、組織特異的な細胞に分化することで、損傷を受けた組織の構造や機能を修復します。当社は、Muse細胞の分離・精製等に関わる研究を進めております。なお、今後については、LSIIと協議を進めております。

脂質代謝関連項目においては、大阪大学、群馬大学、神戸大学などとの共同開発を進めており、その中で、EL（Endothelial lipase）、HTGL（hepatic triglyceride lipase）、GPIHBP1の各測定キットを販売してきました。さらに、LPL（Lipoprotein Lipase）とHTGLの活性を測定できるキットも販売を開始致しました。検査事業における、脂質に係るタンパク質であるリポタンパク質の詳細なプロファイリング測定サービスであるLipoSEARCH、あるいはコレステロールの吸収/合成マーカー測定サービスの提供などと連携した、プロモーション活動も継続しております。

成人T細胞白血病（ATL）の発症原因ウイルスHTLV-1が感染した細胞に関連するタンパク質に対する抗体及び測定系の開発を行っており、まずは研究用試薬としての販売開始を予定しています。

##### 新規テーマ

TG社から許諾を得て、肥満、脂肪肝、その他の肝障害、急性腎不全などのバイオマーカーとして注目されているタンパク質である、AIM（Apoptosis inhibitor of macrophage）の測定キットの製品化（研究用試薬）を進めております。なお、本製品は、今年度中の販売開始を目標としております。

#### ・ 遺伝子組換えカイコ事業

当事業においては、大手体外診断用医薬品企業へ診断薬原料抗体の売上が計上されましたが、共同研究契約先からの契約金収入などの計上がなかったため、前年同期に比べ大幅に減少しております。その結果、当セグメントの売上高は10,779千円（前年同期比80.4%減）、営業損失は131,027千円（前年同期は209,906千円の営業損失）となりました。

なお、当事業においては、継続して積極的に研究開発費を投じ、中長期的に企業価値の向上を目指します。

#### 《当事業における研究開発について》

#### （医薬品の実用化を目指す研究開発）

##### 継続テーマ

株式会社アステラス製薬との共同研究開発において、遺伝子組換えカイコの繭から生産されるヒト型フィブリノゲンの産生量の向上を図るとともに、大量飼育設備による安定した大量飼育方法の構築を目指します。

株式会社CUREDが所有する抗HIV抗体を、当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いてADCC活性を飛躍的に増強させ、HIV感染症を根治に導く画期的な抗体医薬品の実用化を目指します。現在、前橋研究所のパイロット設備を活用し、GMP体制下でのカイコ飼育および抗体製造技術の開発を進めています。

琉球大学との共同研究により開発してきたヒト化抗HTLV-1抗体を遺伝子組換えカイコにて生産し、成人T細胞白血病（ATL）を治療する抗体医薬品の開発をおこなっております。

糖鎖構造の特徴から高ADCC活性抗体が生産できる遺伝子組換えカイコの利点を生かし、癌等を治療する抗体を製造し、バイオベクターとして実用化することを目指します。

#### （動物用医薬品の実用化を目指す研究開発）

##### 継続テーマ

動物用医薬品メーカーと共同で、遺伝子組換えカイコによって動物用医薬品原料となるタンパク質の生産を進めております。遺伝子組換えカイコ生産技術の利点を最大限に生かし、高い安全性および有効性が要求される動物用医薬品の原料として活用することを目指します。

#### （研究用試薬および体外診断用医薬品原料としての抗体開発）

研究用試薬や体外診断用医薬品に使用する抗体を、遺伝子組換えカイコにより生産する技術を開発してまいりました。この技術を活用して、当社の製品であるアミロイド測定キットに用いている抗体を、遺伝子組換えカイコ生産抗体に切り替えたほか、大手体外診断用医薬品メーカーへも、抗体の供給を行っております。

#### （売上高の拡大を目指します）

## 継続テーマ

iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミニン511-E8 フラグメント（ラミニン511-E8）を遺伝子組換えカイコにより製造し、昨年9月より、株式会社ニッピおよび株式会社マトリクソームを通して一般販売を開始しています。現在、増産へ向けてスケールアップの検討等を進めています。

アレルギーを起こす危険性が低い、安心・安全な化粧品原料ヒト型コラーゲン「ネオシルク - ヒトコラーゲン」を製品化し、化粧品業界へ展開しております。国内外からの引き合いも増加しており、増産へ向けてスケールアップの検討等を進めています。

### ・検査事業

当事業においては、国内外に向けて、学会展示によるプロモーション活動を積極的に展開し、大口案件等の受注も増加し、売上高も前年に比べ増加しております。その結果、当セグメントの売上高は85,187千円（前年同期比4.9%増）、営業利益は6,796千円（前年同期は12,790千円の営業損失）となりました。

なお、当事業においては、継続して安定した黒字化を目指して参ります。

### ・化粧品関連事業

当事業においては、「ネオシルク - ヒトコラーゲン」配合化粧品「フレヴァンシリーズ」の売上高につきまして、東南アジア向けの販売が順調に増加しております。また、中国向けの販売につきましても、来期売上高に貢献できるように販売準備を進めております。さらに、化粧品原料「ネオシルク - ヒトコラーゲン」につきましては、欧州を中心に世界に向けて販売するために、欧州の代理店と共同で販売準備を進めております。その結果、当セグメントの売上高は13,500千円、（前年同期比32.8%増）、営業損失は7,703千円（前年同期は14,192千円の営業損失）となりました。

なお、当事業においては、通期において利益創出を目指しておりましたが、中国向けの販売申請が来期にずれ込むことにより、当事業の黒字化は、来期において目指して参ります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は504,844千円（前年同期比1.3%減）となりました。利益面は、当第3四半期連結累計期間において、診断・試薬事業及び検査事業の利益が増加したものの、引き続き、遺伝子組換えカイコ事業の研究開発等への積極的な投資を継続していることにより、営業損失が66,260千円（前年同期は183,599千円の営業損失）となり、経常損失は、保険解約返戻金の計上等により、62,401千円（前年同期は195,050千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は、投資有価証券の減損処理等により、68,438千円（前年同期は199,078千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### （資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比4.8%減の3,260,714千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

消費税の還付等による「その他」（流動資産）の78,833千円の減少、及び前連結会計年度の第4四半期連結会計期間に比べ売上の計上減少したこと等により「受取手形及び売掛金」が43,185千円減少したことによるものであります。

### （負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比4.6%減の1,987,711千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

借入金の返済により「1年内返済予定長期借入金」及び「長期借入金」が109,566千円減少したこと等によるものであります。

### （純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比5.1%減の1,273,002千円となりました。この要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により繰越利益剰余金が68,438千円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、121,290千円であります。

(5) 主要な設備

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,419,590	7,550,090	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社にお ける標準となる株式
計	7,419,590	7,550,090		

(注) 提出日現在発行数には、平成30年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月31日		7,419,590		2,271,815		1,304,195

(注) 平成30年1月1日から平成30年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が130,500株、資本金及び資本準備金がそれぞれ52,069千円増加しております。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株 1,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,414,900	74,149	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,590		
発行済株式総数	7,419,590		
総株主の議決権		74,149	

(注) 「単元未満株式」には自己株式が30株含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	1,100	-	1,100	0.01
計	-	1,100	-	1,100	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,574,252	2,517,589
受取手形及び売掛金	193,019	149,833
商品及び製品	43,206	41,388
仕掛品	121,482	127,515
原材料及び貯蔵品	107,719	109,255
その他	89,350	10,517
流動資産合計	3,129,030	2,956,100
固定資産		
有形固定資産		
土地	122,851	122,274
有形固定資産合計	122,851	122,274
投資その他の資産		
投資有価証券	107,615	105,266
その他	66,402	77,073
投資その他の資産合計	174,017	182,339
固定資産合計	296,869	304,614
資産合計	3,425,900	3,260,714
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,435	9,743
1年内返済予定の長期借入金	146,088	146,088
賞与引当金	14,149	6,907
その他	72,813	84,467
流動負債合計	234,486	247,206
固定負債		
長期借入金	329,044	219,478
転換社債型新株予約権付社債	1,519,094	1,519,094
退職給付に係る負債	1,834	1,932
固定負債合計	1,849,972	1,740,504
負債合計	2,084,458	1,987,711
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,271,815	2,271,815
資本剰余金	1,304,195	1,304,195
利益剰余金	2,236,987	2,305,426
自己株式	1,990	1,990
株主資本合計	1,337,033	1,268,594
新株予約権	4,408	4,408
純資産合計	1,341,441	1,273,002
負債純資産合計	3,425,900	3,260,714

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	511,314	504,844
売上原価	229,954	205,188
売上総利益	281,360	299,655
販売費及び一般管理費	464,959	365,915
営業損失( )	183,599	66,260
営業外収益		
受取利息	67	41
受取配当金	600	600
為替差益	-	1,130
未払配当金除斥益	687	-
保険解約返戻金	2,671	2,158
その他	833	1,833
営業外収益合計	4,859	5,763
営業外費用		
支払利息	1,654	1,404
新株発行費	7,333	314
社債発行費	7,124	-
為替差損	183	-
その他	14	186
営業外費用合計	16,311	1,905
経常損失( )	195,050	62,401
特別損失		
投資有価証券評価損	-	2,349
その他	-	576
特別損失合計	-	2,926
税金等調整前四半期純損失( )	195,050	65,328
法人税、住民税及び事業税	4,027	3,110
法人税等合計	4,027	3,110
四半期純損失( )	199,078	68,438
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	199,078	68,438

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純損失( )	199,078	68,438
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	199,078	68,438
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	199,078	68,438
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	- 千円	827千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	121,526千円	- 千円
のれんの償却額	6,818 "	- "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において新株予約権の行使に伴う新株発行を実施いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ290,758千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,237,102千円、資本剰余金が1,269,482千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	366,082	54,950	80,113	10,167	511,314		511,314
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,105	6	1,096		3,208	3,208	
計	368,187	54,956	81,210	10,167	514,522	3,208	511,314
セグメント利益又は損失 ( )	52,570	209,906	12,790	14,192	184,319	720	183,599

(注)1. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額720千円には、セグメント間取引消去720千円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	396,218	10,709	84,415	13,500	504,844		504,844
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,714	70	771		3,555	3,555	
計	398,933	10,779	85,187	13,500	508,400	3,555	504,844
セグメント利益又は損失 ( )	64,954	131,027	6,796	7,703	66,980	720	66,260

(注)1. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額720千円には、セグメント間取引消去720千円が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額( )	27円41銭	9円22銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (千円)	199,078	68,438
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額( ) (千円)	199,078	68,438
普通株式の期中平均株式数(株)	7,262,005	7,418,460

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

新株予約権の行使について

当第3四半期連結会計期間終了後、平成30年2月14日までに第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部について、以下の通り権利行使が行われました。

1. 行使された社債額面金額	104,139千円
2. 行使された新株予約権個数	3個
3. 発行した株式の種類及び株式数	普通株式 130,500株
4. 資本金増加額	52,069千円
5. 資本準備金増加額	52,069千円

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月14日

株式会社免疫生物研究所  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桂	川	修	一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	英	志	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。